

No. 3
相原夕佳（あいはらゆうか）
7枚

M
I
T
S
U
K
O

登場人物

光子

ハインリヒ・クーデンホーフ伯爵 光子の夫

父 光子の父

母 光子の母

ダミアン ハインリヒ伯爵の弟

ゾフィー その妻

リヒャルト 伯爵夫妻の息子

バービツク ハインリヒの侍従

フランツ、マックス、アレックス

ウイーン貴族、ハインリヒ伯爵の友人

ロルフイ、エルザ、オルガ、イーダ

伯爵夫妻の子供たち

クーデンホーフ伯爵家親族たち

東京の女学校生たち

初詣客たち

獅子舞芸人、大道芸人たち、雅楽奏者たち

ロンスペルク城の夜会の客たち、

ウイーンの舞踏会の客たち

第一幕 日本との決別

東京の神社、十九世紀末

【第一場】「明けましておめでとう」

初詣客たち・光子・ハインリヒ伯爵・獅子舞
芸人・大道芸人たち・雅楽の奏者たち

大きな鳥居のある神社の境内。和装
洋装入り混じる人々が集う明治の正
月の風景。大勢の初詣客で華やぎ、
獅子舞、お囃子、大道芸が賑やかに
催されている。

初詣客たち

正月立つ 春の初めに かくしつ
相し笑みてば 時じけめやも¹
新（あたら）しき 年の初めに か
くしこそ
千歳をかねて 楽しきをつめ²

(そこへ雪が舞い、一瞬静かになる)

初詣客たち

新(あらた)しき年の初めに
豊
の年

しるすとならし 雪の降れるは³

冬ながら 空より花の 散り来るは

雲のあなたは 春にやあるらむ⁴

(再び賑やかになり)

雪が舞う!

正月一日に幸先のよいこと!

明けましておめでとう。

今年も良き年になりますように!

無病息災、大願成就! 商売繁盛!

富国強兵、文明開化、殖産興業!

大道芸人 芸事成就!

学生 帝大合格!

（雪は止み、いつそう明るくなる。

賑わう境内で、家族と共に初詣に来

ている和装の女学生1と洋装の女学

校生2が出会う）

女学校生 1 明けましておめでとう。

すてきな洋服ね。

でも、お正月はやっぱり着物よ。

女学校生 2 明けましておめでとう。

すてきなお着物ね。

でも、これからの時代は洋服よ。

女学校生 1 ところで何をお祈りしたの？

女学校生 2 言えませんわ。

そんなことより…

もうじき光子さまがお参りに。

女学校生 1 ミツコさま？

女学校生 2 クーデンなんか…オウスト

リヤⅡハンガリヤ大使の…

女学校生 1 知ってるわ。奥様というか、

何というか…

女学校生 2 奥様よ。結婚式もあげて、

れっきとした伯爵夫人。

私にもそんなご縁がありますように。

女学校生 1 それがあなただの新年のお祈り？

女学校生 2 憧れるわ！

国境も身分も越える恋！

女学校生 1 まあ、はしたない！

お父様がお許しになりません。

女学校生 2 （反論できず、話題を変えて）

ねえ、光子さまはお着物かしら、

お洋服かしら？

女学校生 1 お洋服でしょ？

そんな勇ましい方なら。

女学校生 2 いいえ、今日はきつとお着物よ。

女学校生 1 あらどうして？

女学校生 2 なぜかしら、そんな気が。

女学校生 1 お洋服よ。

女学校生 2 お着物よ。

和装の女性たち お着物よ。

洋装の女性たち お洋服よ。

初詣客たち ま、どっちにしても、

明けてましておめでとう！

今年も良き年になりますように！

無病息災、大願成就、商売繁盛！

富国強兵、文明開化、殖産興業！

大道芸人 芸事成就！

学生 帝大合格！

女学校生 1、2 良縁成就！

初詣客たち 今年もご利益ありますように！

明けてましておめでとう！

（お囃子に合わせて獅子舞が披露さ

れる。人々は獅子の周りに集まり、

陽気な賑わいがしばらく続くが、や

がて一変して、新年を祝う幽玄な調

べ。その響きの中、再び雪が舞い、

桜の柄の着物を着た光子とハインリ

ヒ伯爵が登場）

光子 桜？ いいえ、雪だわ。

ハインリヒ （光子に）桜はここに。

光子 桜を着るのはまだ早いけど、

このお宮の桜を待たず、

旅立つ日まであとわずか。

桜のように潔く旅立ちたくて

今日は桜を着ましたの。

ハインリヒ この美の国の桜を待たず

旅立つが、（光子に）

桜はいつも、私とともに。

光子 これが最後の初詣。

着物を着るのも

今日限りにいたします。

ハインリヒ それはいけない。

これからも着て欲しい。私のために。

光子 あなたのために？

ハインリヒ キモノのみつは美しい。

ローブデコルテの貴婦人よりも。

光子 着ますわ。これからも、

あなたのために。

ハインリヒ 寂しい思いをさせてすまない。

だが、大使の任期を終えた今、

帰国命令に背くことも

みつと別れることもできない。

光子 行きますわ。あなたと共に。

ハインリヒ 大海を越えて大陸へ渡り、

砂漠を超えて、平原を歩き

わが故郷ボヘミアへ。

光子 行きますわ、あなたとならば

天国でも極楽でも地獄でも。

なんだか恐い夢みたい。

ハインリヒ 恐がらないで。

みつの幸せのためなら何でもする。

命をかけて守ると誓う。

光子 ありがとうございます。私、行きます。

行きますわ、どこまでも。

ハインリヒ 共に祝おう、新年を。

記念すべき、旅立ちの年を。

光子 お祝いしましょう。素晴らしい年を。

明けましておめでとうございます！

ハインリヒ 明けましておめでとう！

一同 明けましておめでとう！

新しい年、新しい旅立ちに！
新しき時代、

素晴らしき世界の幕開けに！

初詣客たち 明けておめでとう！

明けておめでとう！

もう一丁！

明けておめでとう！

（二人を祝福するかのように、桜吹雪のような雪が舞う）

【第二場】 「祈り」

光子ひとり

神社の本殿。境内の賑わいとは異なる静謐な空気が流れる空間。光子が
独り祈りを捧げる。

光子

かみさま、かみさま、

みつはもうすぐ旅立ちます。

このお宮の桜を待たずに。

異国の人とめぐりあい、

愛し愛され、結婚しました。

父の許しも得ぬままに。

許されぬことと人は言うけど、

でも、かみさまはもつと寛大なはず。

かみさま、かみさま、お守りくださ

い。

かみさま、かみさま、

家族と別れ、祖国を離れ、

咲く花も、囀る鳥も、吹く風さえも、

違うところへ旅立ちます。

でもきつと、お陽さまは同じだから、

このお宮の桜のように

凜とした日本（にほん）の心を忘れ

ずに

清く潔く生きてゆきます。

かみさま、かみさま、お守りください。
い。

かみさま、かみさま！

育った世界も、身分も超えて

喋る言葉もしきたりも

違うところへ旅立ちます。

でも、かみさまはご存じのはず。

生まれた国や民族が違っても

本当に大切なことに違いはないから、

わかりあえないはずはないと。

かみさま、かみさま、お守りくださ

い。

かみさま、かみさま、

国境を超えて愛し愛され

結ばれた二人のように

世界中の人たちが愛し愛され

幸せになれますように！

かみさま、かみさま、かみさま！

【第三場】「父の怒り」

光子・父・母・ハインリヒ伯爵

祈りを終えて本殿を出た光子。そこへ光子の父が物凄い剣幕で登場。正月の礼装に時代錯誤な髷。

光子 お父さん？

父 みつ！ この裏切り者！（いきなり頬を平手で打つ）

光子 ああっ！（くずおれる）

父 クーデン何とかの国に行くというのは本当か？

光子 はい、夫クーデンホーフ伯爵の帰国に伴い、欧州へ参ります。

父 夫？ 異人の正妻なんてあり得ない。妾だろ？

光子

お妾さんなんかじゃありません。

(きっぱりと) クーデンホーフ伯爵

夫人です。

父

異人に嫁ぐつてのは、世間じゃそう

いうことなんだよ。

娘を慰みものに差し出した覚えはな

い！

あまつさえ、お国を裏切るのか？

恥知らずにも程がある！

光子

恥ずかしいことなんて、何も……

父

うちは華族さまじゃねえが

代々地道な商売で財を築いた名家。

由緒ある家名を傷つけ、店の暖簾に

泥を塗りやがって……勘当だ！

光子

そんな……お父さん……。

父

いや、勘当だけじゃ足りなりねえ。

父に背き家族を棄て、あまつさえ

お国を裏切るたあ！

これ以上世間に恥を晒すのは

家長として許せない！

名誉を守るにはもう、これしかないか

ろう。（光子に懐剣を差し出す）

光子

これは？

父
武家の娘さんが

懐に忍ばせていた刀だ。

名誉と操を守るために。

せめてもの情けだ。

家のためというより、

お前自身の名誉のために。

光子

自害しろと？

確かにお父さんに背きました。

でも、不名誉なことはしてません！

まだわからないのか？

父
この裏切り者！ さあ、一思いに！

光子

いや！ いや！ みつは死にません。

あの人と行きます。

（父が激しく光子を攻め立てる中、

巾着袋を持った母が登場）

母 みっ！

光子 お母さん！

父 (母に) お前から言っただけ、

名誉を守れと。

母 何もそこまで…狂気の沙汰です！

父 どうしてもいやと言うなら、

わしがこの手で。

母 おやめなさいませ！

(父が懐剣を鞘から抜いたところへ、

ハインリヒ伯爵が登場)

ハインリヒ みつに、何を？

(ハインリヒ伯爵、正面から父に立

ち向かう。父は気迫に圧倒され懐剣

と鞘を落とす。母がそれを拾う)

父 （後ずさりしながら）大使様だか華

族様だか知らないが、目の色も違う

お人に娘をやるわけにはいかねえ！

光子 （ハインリヒのもとに駆けつけて）

あなた、お怪我は？

ハインリヒ （光子の手を握り）大丈夫だ。

みつこそ、怪我は？

父 （二人の睦まじい様子に激昂し）

か：勘当だ！

光子 承知いたしました。

父 勘当だ！ 勘当だ！ 勘当だ！

（悪態をつきながら退場）

【第四場】「日本からの旅立ち」

光子・ハインリヒ伯爵・母

父が毒気を残して立ち去った後、茫

然と立ち尽くす光子をハインリヒ伯

爵が優しく支える。

光子 ああ、お父さんはあんなにも…

ハインリヒ かわいそうに、みつ。

光子 父は古い人で、どうしても許してくれませんか。

ハインリヒ 父上には認めていただきたいが、自分の娘に刃を向けるなんて！

光子 父は恐い人で、また追ってくるかも知れませんか。

ハインリヒ なんとということだ！
すぐにでも旅立とう。

光子 あなたがそうおっしゃるのなら。
(母に)お母さん、ごめんなさい。

母 どうしても行くのね、みつ？
光子 はい。

母 ならば、私は止めません。
これを持ってお行きなさい。

光子 あなたの宝物ですよ。
(中身を見て)まあ懐かしい！

母 幼い頃、一緒に遊んだ

光子 お手玉、おはじき。

母 母さんと作った

光子 てんてん手毬。

母 お気に入りの

光子 桜の簪。(袋から房を取り出して)

これは？

母 お師匠さまとのお手合わせに

勝った記念の

光子 薙刀の房！

母 でも、いけませんよ。

あまりお転婆なことをするのは。

光子 懐かしい思い出の宝物。

ありがとうございます、お母さん。

でも、もう一つ欲しいものが……

その懐剣を。

自殺は許されない罪だけど、

もし、どうしても、どうしても、

あちらの世界で生きてゆけなくて

この人を困らせるようなら、

いっそ自分で。

ハインリヒ 何ということを！

そんなことは絶対に許さない！

何があっても守ると誓った

この私が信じられないのか？

光子 ごめんなさい、あなた！

あなたを疑ったことなどありません。

ただ、私も命をかけて

あなたについていきたいから

覚悟のあかしの懐剣を

ハインリヒ 必要ない。

（母に）そのカタナはいりません。

必ずミツコさんを幸せにします。

それが私の使命であり幸福なのです。

母 （懐剣を手提げにしまい、頭を深く

下げて）娘をよろしく願います。

この目の前で本当に命をかけて

この子を守ってくださいました

貴方を信じます。

この子の父には私が説得しましょう。

（光子に）行ってらっしゃい、みつ。

光子 行ってきます、お母さん……

咲く花や囀る鳥が違って

きつとお陽さまは同じだから

お陽さまの暖かさを感じたら

お母さんのことを想い出すでしょう。

さようなら、お母さん。

光子の母 さようなら、みつ。（退場）

光子 さようなら、お母さん。

さようなら、日本（にほん）。

ハインリヒ （光子の涙をふいてやり、じつ

と目を見つめて）

あなたの黒い瞳に

私の心は炎と燃える。

この情熱を翼に変えて

翔び立とう、新しい世界へ。

恐がらないで、私が守る。

あなたの黒い瞳の

煌きが失われないように。

光子

（ハインリヒの目を見つめて）

あなたの青い瞳に

私の心はときめいて

このときめきの翼にのって

翔び立ちます、まだ見ぬ世界へ。

でも、恐くない。

あなたの青い瞳が

私に勇気をくれるから。

光子、ハインリヒ 二人の旅は永遠（えいえ

ん）に続く。

この愛は真実だから、

やがてすべてを超えてゆく

奇跡を起こすと信じてる。

黒い瞳、青い瞳、見つめあい

決してこの手を離さない。

二人の絆のその先に、

生まれも育ちも、

国家、民族、伝統、文化、

あらゆる壁を乗り越える
新しき世界が開ける。
新しき世界、素晴らしき未来へ、
旅立とう、二人で。

(第一幕 終わり)

第二幕 ハインリヒ伯爵の志

ボヘミア、ロンスペルク城、十九世紀末

二十世紀初頭

【第一場】「歓迎されない花嫁」

光子・ハインリヒ伯爵・クーデンホーフ家親
族・夜会の客たち・侍従バービック・フラン
ツ・マックス・アレックス

ロンスペルク城の大広間。ハインリ
ヒ伯爵夫妻の帰国と結婚披露の夜会
が催されている。輝くシャンデリア
の下、貴族たちの円舞。その中心に
ハインリヒ伯爵と光子。客たちの合
唱に合わせてワルツが続く。

客たち ハインリヒ・クーデンホーフは

コスモポリタン。

アテネ、リオ、ブエノスアイレス、

そして、極東の美の国日本（にほん）
で

大使の公務に励みつつ、
近隣諸国を旅してまわり
喋れる言葉は十八か国語（じゅうは
ちかこくご）。

ハインリヒ・クーデンホーフは
パイオニア。

極東の美の国、日本で
大使の公務に励みつつ、
日本（にほん）初のオペラを上演。
プロデュースで手腕をふるい
メフィストフェレスを舞台で熱演。

ハインリヒ・クーデンホーフは
ロマンティスト。

極東の美の国日本（にほん）で
大使の公務に励む前に
一目惚れの大恋愛。

ロマンティックに愛を育み
黒い瞳の伯爵夫人を連れて帰国。
伯爵に乾杯！ 伯爵夫人に乾杯！

ハインリヒ ありがとう。

我が故郷（こきょう）ロンスペルク
に乾杯！

この地を盛り立ててくれる皆さんに
乾杯！

父の死後、この地を守ってくれたク
ーデンホーフ家の皆に乾杯！

そして、わが妻ミツコに乾杯！

（光子、一同に微笑みかけて優雅な
お辞儀をする。再び円舞が始まる）

客たち 誰よりも白い真珠の肌。

漆黒の豊かな髪。

そして煌く黒い瞳。

美の国日本（にほん）からやってき
た

黒い瞳の伯爵夫人。

ミツコ、

ミツコ・クーデンホーフ。

親族たち 極東の小国の町娘が

伯爵家の正妻に？

認めたくない。認めない！

あの美しさ！ あの嫺やかさ！

人間じゃない。まるで魔女だ！

伯爵が東洋の魔女の手に堕ちた。

何ということ！

一族の恥辱だ。

（悪意に満ちた声は次第に不協和音を奏でて不気味に響く）

光子

（皆の悪意を感じ取って）あなた：

ハインリヒ 気にしなくていい。

堂々と振る舞って。

光子 　　でも…

ハインリヒ 誰が何と言っても、

貴女は城主である私の妻だ。

光子 　　相応しくない…

ハインリヒ 気にするな。自信をもって微笑

んで。

光子 　　わかりました。微笑みましょう。

クーデンホーフ伯爵夫人として。

今宵の宴の華やぎの中に

仮面舞踏会が今幕開ける。

仮面の内に涙がこぼれる

つらい試練の仮面舞踏会。

でも、仮面を被りましょう。

誰よりも優雅で 誰よりも気高い

伯爵夫人の仮面を。

今宵の宴の幕が閉じても

光子

仮面舞踏会は続く。

決して仮面を外すことはない

永遠の仮面舞踏会。

さあ、仮面を被りましょう。

誰よりも優雅で 誰よりも気高い

伯爵夫人の仮面を。

（優雅にワルツを踊る光子。そのド

レスの裾をゾフィーが故意に踏み、

光子は転倒しそうになるが、ハイン

リヒが支え、舞踏の輪から連れ出す。

舞踏は中断し、光子に注目が集まる）

雪の舞う冬に日本（にほん）を旅立
ち

海路、陸路の長い旅を経て

花盛りのロンスペルクの春に

皆さまにお会いできたことを

嬉しく思います。

私を優しく迎え入れてくれた

花々や鳥たちにも感謝を捧げます。

「花々と鳥たちのヴォカリーズ」

今宵は心ゆくまでお楽しみください。

（光子の歌声と優雅なお辞儀に一同は拍手を捧げる。そこへ、トルコ帽を被ったハインリヒの侍従バービツクが登場）

ハインリヒ 遅いぞ、神出鬼没のバービツク。

バービツク ありやりや、これはご無礼を。

バービツクが機転を利かせ、

ありやりやと驚くお祝いをご用意しました。

（ハインリヒの旧友フランツ、マックス、アレックスが登場）

ハインリヒ フランツ、マックス、アレック

ス！ ウイーンからわざわざ？

フランツ、マックス、アレックス

親友の結婚祝いに

駆け付けないわけではないだろう？

クーデンホーフ伯爵に乾杯！

一同 伯爵に乾杯！

ハインリヒ ありがとう、フランツ、マックス、アレックス。

ところで、反決闘協会の方は？

フランツ 目下、設立に向けて準備中。

実現の際にはぜひ会長に。

ハインリヒ 考えておこう。その時までには

私が決闘で死ぬことがなければ。

フランツ 反決闘主義者の君が決闘を？

ハインリヒ 決闘には反対だが、

ミツコを侮辱する者がいたら、

容赦なく決闘を申し込む。

たとえば、親族でも。

フランツ、マックス、アレックス

伯爵夫人を侮辱したら、

百発百中、一発必殺の射撃の名手

ハインリヒ・クーデンホーフと

決闘だ！

そんな恐ろしいことを

一体誰がするものか？！

伯爵夫人に乾杯！

一同
伯爵夫人に乾杯！

（夜会は華やかに盛り上がるが、クーデンホーフ家親族たちが放つ不協和音は最後まで残る）

親族たち 伯爵が東洋の魔女の手に堕ちた！

何ということ！ 一族の恥辱だ！

光子 今宵の宴が終わっても、

仮面舞踏会は続く。

決して仮面を外すことはない

永遠の仮面舞踏会。

（ハインリヒを見つめて）

素顔になれるのは

あなたと二人きりでいる時だけ。

【第二場】「悪の誘惑」

ダミアン、ゾフィー

夜会が終わり、静まりかえった広間。
ダミアンが独り酒を飲み続けている。
奥の長椅子にゾフィー。その手に小
銃を隠し持っている。

ダミアン （独白） 完敗だ！

兄にはどうしてもかなわない。
一族の中心で賞賛を浴び、
輝いているのは、いつも兄。
あの才能、あの逞しさ、美しさ。
完全無欠だ。かなわない。
嫉妬、羨望、劣等感…
兄の存在が私の運命を狂わせる。
兄さえこの世にいなければ！

…：なんて考える自分も惨めだ。

ゾフィー　まあ、ダミアン、そんなふうに住

分を追い詰めないで！

ダミアン　ゾフィー、いつからそこに？

飲み過ぎただけだ。忘れてくれ。

ゾフィー　私に隠し事は無用よ。

教えてあげましょう。

私がどんなにあなたを愛しているか。

（隠し持っていた小銃を渡す）

お義兄様さえいなければ…

とあなたは仰った。

ダミアン　これは？

ゾフィー　あなたにはクーデンホーフ家を守る義務があります。

お義兄さまは、東洋の魔女の手に

堕ちた、だらしない方。

ご自分の身を滅ぼすばかりか、

伯爵家に乗っ取られることにもなり

かねない…

そんな方に当主の資格はないわ。

ダミアン 恐ろしいことを……（驚きながら

も小銃を受け取る）

ゾフィー 魔女に憑かれた伯爵には、何を言

つても無駄なこと。

一族を救い、正しい道に導くには、他に方法がありません。

ダミアン 何もそこまで！

兄が次の赴任地に行ってしまったえば、また元の生活に。

ゾフィー お義兄さまのご不在中は

あなたがこの城の主も同然。でも、これまでのことが知られたら？

ダミアン 心配無用だ。ヨハンは口が固い。

ゾフィー 甘いわね。ご用心なさい。

れっきとした貴族の妻を娶った

あなたの方が爵位に相応しい。

皆がそう思っている今こそが、

ご決断のとき。

ダミアン 悪の道に引きずり込むのか？

ゾフィー とんでもない、これは正義よ。
ダミアン、ゾフィー

東洋の魔女から一族を守るため
今こそ、決断のとき。

ダミアン （小銃を胸に握りしめ）ははは、

お前は恐ろしい女だな。

ゾフィー ほほほ、あなたのためなら

鬼にでもなれてよ。

（野望に燃える二人の狂気に満ちた

笑い声が不気味に響く）

【第三場】「兄弟の確執」

ハインリヒ伯爵・光子・ダミアン・ゾフィー
バービツク

数日後の夜。ハインリヒ伯爵の書斎。

膨大な量の蔵書が並ぶ書棚。暖炉の

前に火掻き棒。ひとり執筆中のハイ

ンリヒ伯爵。そこへ、光子がお茶を
持って入ってくる。

ハインリヒ　ボヘミアの木々を渡る鳥たちよ、

共に鳴き響き合い、一斉に囀る
それぞれの歌が私には聴こえる。

ボヘミアの春を彩る花々よ、
互いに彩り合い一斉に咲き誇る
その色も香りもすべて愛おしい。

様々な鳥たちが囀り
様々な花たちが咲き誇る
豊かな調和に
自然界は深まり華やぐ。

ああ、しかし、人の世界は！

世界は病んでいる。
差別、偏見、不寛容、支配欲……

悪の連鎖が分裂と紛争を生み
自滅へと突き進む。

戦争、破壊、大虐殺。

帝国は崩壊し、大きな悲劇が訪れる
だろう。

なぜ人は他を敬い友愛を結び

平和を築くことができないのだろ

う？

（激昂して）なぜだ！ なぜ世界

は？

光子 あなた！ 独りで苦しまないで。

（夫に駆け寄り、優しく手を取る）

ハインリヒ （光子の手を握りしめ）

みつ、私の小鳥、私の花！

あれを歌って。花々と鳥たちの歌を。

光子 （戸惑いながらも歌い始める）

私を優しく迎え入れてくれた

ロンスペルクの春に。

花々と鳥たちに、そしてあなたに。

「花々と鳥たちのヴォカリーズ」

（ハインリヒ、感極まって光子を抱きしめる。二人の長い抱擁。そこへ小銃を隠し持つダミアンが入ってくる。ゾフィーが扉の側に控える）

ハインリヒ （ダミアンに気づいて）

失敬だぞ。断りもなく。

ダミアン （光子を見て、独白）魔女め！

ちようどいい。一度で済む。

ハインリヒ だが、いい折だ。話がある。

光子 外しましょうか？

ハインリヒ いや、聞いて欲しい。

帳簿を調べたところ、不審な点が多々あり：

多々あり：

ダミアン 領地の経営は全て、管理人のヨハン

にまかせて……

ハインリヒ ヨハンは解雇した。

恩給を渡して。

ダミアン 恩給を渡して？

ハインリヒ この不始末の責任は全て

監督を怠った私にある。

領主としての責務を果たすため

私は外交官の職を辞し、

この地に留まる事に決めた。

その前に：：ダミアン、お前の

不正を放免するわけにはいかない。

ダミアン 前途有望な外交官の兄上が

田舎の農場主に？

どういう心境の変化です？

それも東洋の魔女の仕業ですか？

ハインリヒ 口を慎め！

ダミアン 決闘ですか？ 一発必殺は御免だ。

それより：（小銃を出してハインリ

ヒに向ける）

光子 （悲鳴をあげる）なんてことを？！

誰か、誰か！

（光子、部屋から出て助けを求めようとするが、ゾフィーに阻まれる。ゾフィー、予め手に握っていた暖炉の火掻き棒で光子を打つ。光子は倒れ、ゾフィーに取り押さえられる）

ハインリヒ みつ！

ダミアン この書斎は実によくできていて、

鎧戸を降ろしてしまえば

外に声は漏れない。

ゾフィー 銃声もね。

ハインリヒ どういうつもりだ？

ダミアン 一族のためです。

クーデンホーフ家の男として、

この家を守る義務がある。

東洋の魔女の虜になった貴方に

何を言っても無駄なことだ。

ならばいっそ、手っ取り早く……

ハインリヒ 卑怯者！ 罪を犯してまで

悪事を成し遂げたいのか？！

ダミアン 殺人犯人にはなりませんよ。

貴方は自殺する。その女を道連れに。

ハインリヒ 敬虔なカトリックの私が自殺？

そんなことを誰が信じる？

ダミアン 証拠はそこに。（机上を指さす）

ちらりと読んだが、ご立派なことだ。

立派すぎて支離滅裂だ。

民族や身分の序列を守り、

優れた者が劣った者を支配するのが

国家の正義、貴族の使命なのに。

ハインリヒ それがお前の信条か？

ダミアン 信条も何も、世の常識ですよ。

ハインリヒ 間違っている！

真の貴族は支配者ではない！

伯爵家に生まれただけで

真の貴族になれるとでも？

思いあがるな！

ダミアン ははは！ それこそ錯乱だ！

（机上を指さして）そして、

これはそのまま、精神錯乱の証拠。

狂気の果てに、怪しげな妻を道連れ
に拳銃自殺。(銃の狙いを定める)

ゾフィー さあ、今です！

ダミアン 兄上、ご覚悟を！

(恐れることなくダミアンを睨みつ
けるハインリヒ。その気迫に圧倒さ
れ、震える手で小銃を構えるダミア
ン。その間に光子がゾフィーの手か
ら逃れ、火掻き棒を薙刀のように扱
い、ダミアンの手を打つ。発砲され
るが銃弾は壁に当たり、小銃は落と
される。光子は小銃を拾い上げ、夫
のもとへ)

ダミアン (光子を睨みつけて) 魔女め！

男を惑わす東洋の魔女め！

未開の国の下賤の娘！

兄上、貴方の妻を侮辱しました。

決闘に応じます。

一発必殺で殺してくれ！

ハインリヒ いや、それには及ばない。

勘当だ、ダミアン。

即刻この城から出て行ってくれ。

ゾフィー あと少し、もう少しだったのに：

（泣き崩れる）

ハインリヒ 全て打ち明け非を認めるのなら

許すつもりだった。だが、

そこまで私を憎んでいるとは！

（扉を叩く音。バービックが器用に

道具を使って施錠された扉を開け入

ってくる）

バービック 旦那さま、奥さま、

物騒な音が聞こえました。

ハインリヒ 遅いぞ、神出鬼没のバービック。

見張りを付けて、この二人を部屋へ。

明日にでもここを発つので、

馬車の準備をさせてくれ。

バービック 御意。

(バービック、ダミアンとゾフィー
を連れ、退場。二人きりになったと
ころで、ハインリヒは光子に跪く)

光子 あなた、いけませんわ。

ハインリヒ みつが命を助けてくれた。

臆病な奴だから撃てやしないと

高を括っていたが……

弟は狂っていた。

みつがこんなに勇敢だったとは！

光子 薙刀なら誰にも負けません。

ハインリヒ 弟は狂ってしまった！

家族なのに、兄弟なのに、銃を向け
るとは！

何が人をあのように狂わせるのか？
欲望、傲慢、怨恨。

卑小な悪の連鎖が

やがて世界を滅ぼすだろう…

光子
かみさま、かみさま、

かみさまはご存じのはず…

ハインリヒ 求める真理に違いはないから、

人同士友愛を結べないはずはないと。

光子とハインリヒ（二人手を取り合い）

かみさま、かみさま、

国境を超えて愛し愛され

結ばれた私たちのように

世界中の人たちが

愛し愛され幸せになれますように！

かみさま、かみさま、かみさま…

【第四場】 「家族の誓い」

ハインリヒ伯爵・光子・リヒヤルト・子供た

ち・バービック

五月の早朝。ハインリヒ伯爵の書斎。

窓から早朝のやわらかな陽ざしが射し込む中、長椅子に横たわるハインリヒ伯爵を光子と寝巻姿の子供たちが囲んでいる。

子供たち　パパ、パパ、大丈夫？

ハインリヒ　おや、何と賑やかなことだ。

みつ、どうして泣いてるんだ？

光子　お倒れになったと聞いて。

ハインリヒ　みんな、早起きさせてすまない。

（バービックに）まだ五時だぞ。

誰も呼ぶなと言ったのに。

バービック　突然お倒れになり、

「神父様を呼べ」なんて仰るので、

これは一大事だと：

光子　バービック、神父様ではなくてお医者様を。

ハインリヒ いや、呼ばなくてもいい。よくあることだ。

バービツク 御意：…いえ、馬車でお迎えに行つてまいります。（退場）

ハインリヒ 困つたな。少し休んだら続きを書きたいのに…

エルザ お話の続き？

イーダ、オルガ お姫様が出てくるお話？

リヒャルト 違うよ、パパが書いてるのは…

光子 いけない子ね。勝手に入って…

リヒャルト 本がいっぱい面白んだもん。

でも、一番面白いのは、

机の上にあるパパの書きかけの…

早く続きが読みたいな。

エルザ、イーダ、オルガ 面白いお話なら聞か

せてよう！

リヒャルト おとぎ話なんかじゃないよ。

ハインリヒ おとぎ話だよ。お姫様が出てく

る…

子供たち 聞きたーい！

ハインリヒ 昔むかし、四季折々の花々が

美しい東の国で、

西の国の青い瞳の王子が

黒い瞳の姫と出会い、

一目で恋に落ちました。

光子 そして、姫も

王子を一目で好きになりました。

ハインリヒ 二人は結婚して、

西の国で暮らすことになりました。

それはとても勇気のいることでした。

二人の国はあまりにも遠く、

色々なことがあまりにも違うので。

光子 でも、姫は王子を愛していたので、

心に迷いはありませんでした。

ハインリヒ 二人はついに旅立ちました。

海を渡り、砂漠を超え、森を超えて、

西の国のお城にやってきました。

旅の途中も、お城に着いてからも

恐い怪物に何度も襲われましたが、

勇敢に闘いました。

ロルフイ　どんな怪物？　鬼？　大蛇？

ハインリヒ　この世のありとあらゆる怪物さ。

でも一番怖いのは、

人の心の中にいる魔物だよ。

リヒャルト　心の中にいる魔物？

光子　どんな魔物が襲ってきても、

王子は姫を守りました。

姫はいつも祈っていました。

この幸せが永遠に続きますようにと。

ハインリヒ　王となった王子は王妃と一緒に

素晴らしい家庭を築きました。

そして……（息苦しくなり中断する

が平静を装い）誰か続けて。

リヒャルト　そこから、素晴らしい世界が

広がって行ったのです。

光子、ハインリヒ

愛し合う二人の絆から

素晴らしき家族が生まれ、

素晴らしき世界が広がる。

ハインリヒ、リヒャルト

国境を越え、民族を超えて

慈しみ合い、友愛を結ぶ

素晴らしき世界がここから広がる。

一同 愛し合う二人の絆から

素晴らしき家族が生まれ、

素晴らしき世界が広がる。

エルザ そしてみんな幸せに暮らしました！

リヒャルト お話はまだ続くよ。

そうでしょ、パパ？

ハインリヒ もちろんだ。

このままではただの夢物語だ。

リヒャルト この素晴らしい家族の子供に

生まれてよかった！

子供たち 僕も！／私も！

光子 （子供たちに）さあ、パパはもう

お疲れだから、お部屋に戻りなさい。

ハインリヒ 早起きさせてすまなかった。

ベッドに戻りなさい。

イーダ、オルガ いや、いや！

エルザ パパのお話、もっと聞きたいわ！

光子 聞き分けないこと言わないで。

お部屋で本を読んであげましょう。

エルザ、イーダ、オルガ ほんとう？

ロルフイ 僕も一緒に聞いていい？

光子 もちろんよ。

リヒヤルト、パパを寝室へ。

（ハインリヒに）お医者様がいらっ

しやるまで、あなたもお休みになっ

て。私もすぐに参ります。

エルザ パパにおやすみなさいのキスを。

イーダ、オルガ 僕も！／私も！

リヒヤルト、ロルフイ 僕も。もう寝ないけど。

リヒヤルト、子供たち おやすみなさい、パパ

（父の頬にキスをする）

ハインリヒ ありがとう、みんな。みつは？

光子 おかしな人ね。（夫の両頬にキスを

する）

（ハインリヒも光子の両頬にキスを

して優しく抱擁する。両親の長い抱

擁を子供たちは嬉しそうに眺めてい
るが、やがて待ちきれなくなる)

子供たち ママ、ママ、お部屋で本を。

(光子、子供たち退場。リヒヤルト
が父を介助しようとする)

ハインリヒ 大丈夫だ。

もう少しだけ書いてから。

リヒヤルト はい、パパ。

(机に向かうハインリヒ。リヒヤル
トは父の姿を尊敬の目で見つめる)

リヒヤルト (書斎を出た所で)

人の心の奥に潜む恐ろしい魔物。

僕の中にもいるのだろうか？

もしいつか心に魔物が暴れても

自分に勝てる自分になりたい。

緑深いロンスペルクの城で
偉大な父の薫陶を受け
美しい母の愛に包まれて
僕の少年の日々は幸福に過ぎてゆく。

でもいつか恐ろしい悪の連鎖が
僕らの時代に襲いかかるだろう。
そんな未来がその目に見える
ハインリヒ・クーデンホーフの
苦悩は深い。

パパ、そんなに苦しまないで！
そして、僕を導いて。
もっともっとパパから学びたい。
もっともっとパパと語り合いたい！
パパ！
（退場）

【第五場】「ハインリヒ伯爵の無念」

ハインリヒ伯爵

家族が去って書斎で独りになったハ
インリヒ伯爵。

ハインリヒ 初めて逆らったな、バービツク。

こんな早朝にわざわざ、

医者を呼びに行くなんて……

わかっている、もう手遅れだ。

どうせ長くない命なら、

病院に縛り付けられるより

いまわの際まで書き綴りたい。

ベッドで看取られるのもごめんだ。

最期までペンを執らせてくれ。

愛し合う二人の絆から

素晴らしき家族が生まれ、

素晴らしき世界が広がる。

国境を越え、民族を超えて

慈しみ合い、友愛を結ぶ
素晴らしき世界が広がる。

これは結局、机上の空論？

夢物語に過ぎないのか？

荒れ狂う時代の波の中

押し寄せる悲劇を前にして

無力な私にできるのは書くことだけ。

だが、どんなに書いても

語り足りない！

志半ばにして筆を折り

この世を去るのか？

いや、今は夢でも子供たちが

立派に引き継いでくれるだろう。

ならば、死さえ恐くない。

無念なのは、

みつよ、みつ！

最愛の妻を独り残して

私は逝くのか？

永遠にこの手を放すことはない
命をかけて守ると誓ったのに。
不寛容な社会、無理解な人々、
見えない魔物が蠢くこの世界に
愛する妻と子供たちを残して、
私は逝くのか？
何という裏切り！
何という呪われた運命！

貴族として、領主として、
外交官として、研究者として、
私の人生は夢のように過ぎたが、
今は一介の作家として、
世界のために身を捧げ
書きながら逝きたい。

（渾身の思いで書き綴るハインリヒ。
窓から射し込む光は、次第に明るく
なり、天上からの招待のように彼を
照らしている）

ハインリヒ （書き続けていたが、力尽き、

ペンを置く）これまでか？

この遺作はリヒャルトに託す。

（朝の小鳥たちの囀り。

ハインリヒ伯爵にはその中に光子の

「花々と鳥たちのヴォカリーズ」も聴

こえる）

世界のため？ いや、

最期にこの身を捧げるのは……

（ペンを執り、最期の力を振り絞って書き始める。神々しい光の中で書き綴るハインリヒ伯爵。しかし、やがてペンを持ったまま机上に突っ伏し息絶える）

（第二幕 終わり）

第三幕 ウイーン・光子の決意

ウィーン、二十世紀初頭

【第一場】「光子の決意」

光子・子供たち・ダミアン・ゾフィー・伯爵
家の人々

晩秋。ウィーン市街の広場。喪に服
す黒い外套の光子がひとり。

光子　もっと宝石をつけなさい。

そう言っただけは、

煌びやかなパリュールで私を飾った。

ロートシルド銀行の金庫から出して。

でも今は、高貴な輝きも虚しいだけ。

ロートシルドに戻しに行ったら、

ミツコ名義の金庫があつて、

家宝の宝石がすべてその中に！

あなたの愛は今も眩しいばかり。

でも……宝石なんていらない！

私の魂を輝かせるのは
あなたの青い瞳だけ。

その日はあまりにも突然に。

喜びも微笑みも永遠に消え去った。

愛する人を失って

残されたのは、伯爵夫人の責任と

あなたに似た美しい子供たち。

優しい父を亡くしても

寂しい思いをさせたくない。

ただ子供たちのためだけに

生きてゆきます。

懐かしいボヘミアの森を超えて

はるか帝都ウイーンへ。

愛する人を失って

残されたのは、伯爵夫人の責任と

あなたに似た聡明な子供たち。

偉大な父の夢をかなえる

立派な人に育て上げたい。

ただ子供たちのためだけに
生きてゆきます。

（リヒャルトはじめ、五人の子供たち
が登場）

リヒャルト　ごめんなさい、ママ。僕が

ウィーンの学校に入りたいと

言ったばかりに大変なことに。

光子　パパの遺言に従ったままでです。

リヒャルト　その日はあまりにも突然に。

あの日、あの瞬間が永遠の別れに。

悲しくて、悲しくて、涙も出ません。

子供たち　悲しくて、悲しくて、

泣いてばかり。

リヒャルト　泣かないで、みんな。

泣かないで、ママ。

パパの夢をかなえるため

一生懸命勉強します。

だから、ママ、心配しないで。

子供たち 泣かないで、ママ。

光子 (独白) 強くならなければ！

この子供たちのためにも。

仮面舞踏会は続く。

愛する人を失った今、

もう永遠に

仮面を外すことはないでしょう。

(ダミアン、ゾフィー、クーデンホ
クーデンホーフ家親族たちが登場)

ダミアン お久しぶりです。義姉上。

光子 あ、あなたがたは？

リヒャルト ごきげんよう、皆さま。

ごきげんよう、ダミアン叔父さん。

ダミアン おや、勘当された叔父さんを

知ってるのか？

オルガ、イーダ カンドウって何？

光子 皆さん揃って、ウィーンまで？

ダミアン クーデンホーフ家としては

出来れば訴訟は回避したい。

直々に話がしたくて来たが、

早速出くわすとは。

オルガ、イーダ ソシヨウって、何？

ダミアン いや、早い方がいい。

ここで済ませましょう。

親族たち 相続を全面辞退して、

一人で日本（にほん）に帰りなさい。

貴女自身のためにも。

光子 この子たちを置いて一人で帰国？

あり得ないことです。

ダミアン 本当に法廷で争うつもりですか？

勝ち目はありませんよ。

生まれも育ちも異なる貴女が

伯爵家の全財産を相続するなんて

親族たち あまりにも非常識で

前例のないことだ。

ダミアン 我々貴族の慣習には従っていただ

きたい。

親族たち 貴女自身のためにも。

光子 親族会議で申し上げました通り、

ハインリヒの遺言に従うまでです。

ゾフィー とうとう正体を現しましたわね、

東洋の魔女さん。

乗っ取りに成功してご満足？

親族たち ハインリヒがあんなにも早く

あんなにも突然亡くなるとは！

ダミアン これも東洋の魔女の仕業か？

光子 なんとということ！

ロルフイ ママをいじめるな！

リヒャルト これ以上母を侮辱したら、

僕が決闘を申し込めますよ！

エルザ、オルガ、イーダ ママをいじめないで

よう！（泣き出す）

親族たち かわいそうな子たち！

教育のことまで勝手に決めて……。

私たちが後見人になるから、

一人で帰国しなさい。

光子 とんでもない！

子供たちは私が育てます。

ダミアン 無理だ！ 荷が重すぎる。

生まれも育ちも異なる貴女に

貴族の子に相応しい教育ができるの

か？

親族たち むしろダミアンに任せたほうが…。

光子 私は私の責任を果たします。

親族たち 無理だ！ 荷が重すぎる。

全て辞退して、帰国しなさい。

貴女自身のためにも。

（勝ち誇る親族たち。毅然とした態

度を保ちながら、絶望に震える光子。

リヒャルトとロルフイは母に寄り添

い支える。晩秋の街角にエルザ、オ

ルガ、イーダの泣き声が響く）

【第二場】「黒い瞳の伯爵夫人」

光子・リヒャルト・子供たち・ダミアン・ゾ
フィー・クーデンホーフ家親族たち・フラン
ツ・マックス・アレックス・舞踏会の客たち

ウィーン世紀末の色彩の華麗な舞踏
会。喪の明けた光子が、青年らしい
雰囲気になったリヒャルトと登場。
客たちの中にはダミアン、ゾフィー、
クーデンホーフ家親族たちの姿も。

フランツ ようこそ、

反決闘協会主催の舞踏会へ。

ウィーン社交界は、クーデンホーフ

伯爵夫人を歓迎します。

エスコートは私が。

マックス いや、私が。

アレックス いや、私が。

リヒャルト いえ、僕が。

フランツ、マックス、アレックス おおお！

リヒャルト、立派になって！

光子　ご招待ありがとうございます、

フランツ、マックス、アレックス。

でも、まだこのような華やかな席に

は：

フランツ　滅相もない。初代会長クーデンホ

ーフ伯を慕う我らが、伯爵夫人を

お迎えしないわけにはいきません。

マックス　決闘遺児のための基金設立に貢献

した伯爵のお子様にも感謝を捧げた

いと、早めの時間に開催した次第。

（バービックに連れられて、ロルフ

イ、エルザ、オルガ、イーダが登場。

拍手で迎えられる）

アレックス　もちろん、クーデンホーフ家の

皆さまもご招待しました。

(ダミアン、ゾフィー、親族たちと
対面し、光子は驚く)

ゾフィー 相変わらずお美しいこと。

次の生贄を物色中かしら？

東洋の魔女さん。

ダミアン 喪が明けたばかりなのに、

大したファムファタールぶりだ。

親族たち もう一度言う。

相続を辞退して、帰国しなさい。

貴女自身のためにも。

フランツ ところがそういうわけにも

いかなくなりましてね。

親族たち どういうことだ？

フランツ クーデンホーフ伯を慕う皆さまの

前で、早速朗報を。

マックス (客たちに) 皆さま、ご静粛に。

アレックス 皆さまも証人としてお聞きくだ

さい。

フランツ 王宮秘書官長である私フランツが
名代として、皇帝陛下のご親書を読
み上げます。

客たち 皇帝陛下直々の？

フランツ では、謹んで：（咳払いし、巻物

の文書を広げて読み始める）

「クーデンホーフ伯爵家においては、

故ハインリヒ・フォン・クーデンホ

ーフ伯爵の遺言通り、その妻、ミツ

コ・フォン・クーデンホーフ伯爵夫

人が全財産を相続することを命ずる。

オーストリア・ハンガリー帝国皇帝

フランツ・ヨーゼフ」

親族たち なんと！

光子、リヒャルト 皇帝陛下の仰せのままに。

（跪く）

客たち 皇帝陛下の仰せのままに！

（祝福の歓声と拍手）

ダミアン こんな茶番は信じないぞ！

ゾフィー そうよ！ きっと出鱈目よ！

フランツ 無礼なことを！

皇帝陛下直筆のご親書です。

マックス （親族たちに）伯爵の遺言に異議

を唱えて、

アレックス 訴訟を起こされたとか……

客たち それは酷い！ 酷すぎる！

だが勝ち目はない。取り下げなさい。

皇帝陛下の仰せのままに。

親族たち 皇帝陛下の仰せのままに。（跪く）

ダミアン、ゾフィー （周りの雰囲気圧倒さ

れて跪く）皇帝陛下の仰せのままに。

光子 このご親書は？

バービック 旦那様のお机の一番上の紙に、

皇帝陛下へのお手紙を見つけ、

フランツ様に託した次第。

リヒャルト あの日、僕が一番上の紙に

見た言葉は、ヨーロッパを一つに……

だったはず。

バービック 旦那様はお亡くなりになる

その瞬間までペンを取り……

フランツ いや、バービック、

上から二番目だったはずだ。

一番上のも同封してくれたけどね。

バービック ありやりや……。

フランツ 一番上はこちら。伯爵夫人への恋

文です。（美しい封筒に入れた手紙

を光子に手渡す）

光子 これがあの人最後の手紙……（封

を開け、手紙を読む）

ハインリヒ（声） みつへ

この一生をかけて

一番に願ったことは

みつの幸せ。

手に入れたかったものは

みつよ、みつ、あなただけだ。

子供たちに伝えておくれ。
あの物語の続きは、
おまえたち一人ひとりの人生だと。

最期に言いたいことはただ一つ
みつ、愛している。

光子

あなたの青い瞳に
私の心はときめいて
このときめきの翼にのって、
飛んでゆきます。
でも何処へ？ あなたがいないのに、
いったい何処へ？

ハインリヒ（声） あなたの黒い瞳に

私の心は炎と燃えて
この情熱の翼にのって
飛んでゆこう。
あなたのもとに。
たとえこの命が尽きても
あなたの黒い瞳の中へ。

光子、ハインリヒ（声）

あなたの「青い／黒い」瞳に

私の心は「ときめいて／炎と燃えて」

この「ときめき／情熱」の翼にのって

飛んでゆこう。

あなたの「青い／黒い」瞳の中へ。

リヒャルト パパ、あの物語は

僕たちが続けます。

決して夢物語に終わらないように、

必ず僕たちが引き継ぎます。

（弟妹たちに）

愛し合う二人の絆から、

素晴らしき家族が生まれ

素晴らしき世界が広がる。

国境を越え、民族を超えて

慈しみ合い、友愛を結ぶ

素晴らしき世界が広がる。

光子、リヒャルト、子供たち

愛し合う二人の絆から、
素晴らしき家族が生まれ
素晴らしき世界が広がる。
一同
国境を越え、民族を超えて
慈しみ合い、友愛を結ぶ
素晴らしき世界が広がる。

ダミアン　これが、兄が描いた理想か……

完敗だ！　兄こそ真の貴族だ！

ゾフィー　そして、伯爵夫人、貴女も。

光子　ダミアン、貴方の勘当を解きます。

ぜひ子供たちの力になってやってく
ださい。

（親族たちに）皆さまも、ぜひ。

（ダミアン、ゾフィー、親族たち、
光子に跪く）

フランツ、マックス、アレックス

何という寛大な！

客たち

伯爵夫人に乾杯！

伯爵夫人に乾杯！

誰よりも白い真珠の肌。

漆黒の豊かな髪。

美の国、日本（にほん）からやって来た

黒い瞳の伯爵夫人ミツコ、

ミツコ・クーデンホーフ、

黒い瞳の伯爵夫人に乾杯！

光子

仮面舞踏会は永遠に続く。

黒い瞳の伯爵夫人ミツコは、

本当は実在しない幻影？

それでもいい。

愛する人と紡いできた

素晴らしき家族の物語を

私も私の生き方を貫いて

語り続けてゆきましよう。

（舞踏が始まり、光子はリヒャルトと踊り始める。これまでの人生を祝福するかのような華麗な円舞の中、光子はいつしかハインリヒと踊っている）

光子　ハインリヒ？　あなたなの？

（少女のように軽やかなステップで踊り出し「花々と鳥たちのヴォカリーズ」を口ずさむ）

ハインリヒ　仮面を外したね、みつ。

（第3幕終わり・オペラ了）

| | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 4 | 3 | 2 | 1 |
| 『古今和歌集』 | 『万葉集』 | 『古今和歌集』 | 『万葉集』 |
| より | より | より | より |
| 道祖の和歌 | 大伴家持の和歌 | 所御歌 | （よみ人知らず） |
| 清原深養父の和歌 | | | |

主な参考文献

- 『クーデンホーフ光子の手記』 シュミット村木眞寿美編
訳（河出文庫）
- 『美の国―日本への帰郷』 リヒャルト・クーデンホー
フ・カレルギー著 鹿島守之助訳（鹿島研究所出版会）
- 『クーデンホーフ光子伝』 木村毅（鹿島出版会）